

歴史 | 探訪

~文化財を巡る~ ⑧

豊岡の文化財を紹介します。皆さんの身近にある文化財を見ていきましょう。

《問合せ》文化振興課 ☎23-1160

「美術工芸品(彫刻)」(その3)

聖観音(正観音)は、前回、前々回に紹介した十一面観音、千手観音などの変化観音の基本になる観音です。本来、勢至菩薩と共に阿弥陀如来の脇侍とされていますが、この場合は聖観音と言わず、単に観音菩薩と呼ばれています。聖観音は左手に蓮華などの持物を持ち、右手を下にして願いをかなえる与願印を結び、頭部には宝冠をいただいている像が一番多いようです。

木造聖観音立像 (国指定)鎌田・文常寺



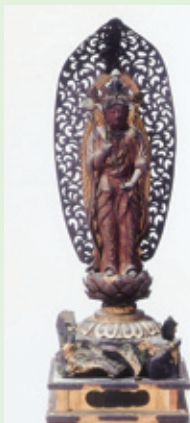
ヒノキの一木造で、像高66cm。県指定となっている本尊(秘仏)の前立の像で、ほぼ同形に造られています。面相が柔和で、腰部を少し左に突き出し、上体を右に傾斜させているため、かわいらしい印象を受けます。全体的に柔らかみのある形や浅く彫られた衣文などから、平安時代後期に造られたと考えられます。

木造聖観音坐像 (県指定)出石町日野辺



一木造で、像高33cmの坐像。造られたのが奈良時代末から平安時代初期ごろとされ、但馬最古の木造仏です。頭部が大きく、全体に厚みがあって重厚な像で、衣文も深く刻まれています。特に、背面の衣文の表現や、組んだ足の前面中央に扇形に広がる裳裾など個性的な作風を示し、類例はほとんどないといわれています。

聖観世音菩薩立像 (市指定)但東町中山・蔵雲寺



ヒノキの一木造で、像高37cm。小像ながら精巧な造りで、着衣全体に金泥で繊細な文様が描かれており、優雅な印象を与えています。光背は銅板を打ち抜いて造られており、細かな線刻も施されています。頭部から胸部にかけて厚みのある形状から、室町時代中期ごろに造られたとされています。

木造観世音菩薩立像 (市指定)出石町中村



寄木造で、像高204cm。胎内に元禄5年銘(1692年)の開眼供養の棟札などが納められています。隣に並ぶやや小ぶりの木造勢至菩薩立像と同じような作風であることから、同一仏師によって造られたのではないかとされています。衣文の彫りなどからも江戸時代初期の仏像とされています。

語句の解説

- ・脇侍…中央に位置する信仰の中心になる仏の左右に控える菩薩などの仏のこと。
- ・与願印…手を下げて手のひらを上に向けた印相。手の動きと指の示す形を印相といい、その形でどんな仏像かが分かる。
- ・金泥…金色の絵の具をニカワで溶いたもの。美術工芸品や日本画などによく使われる。
- ・開眼供養…仏像などの完成の際に営まれる法要。最後に眼を書き込むことによって魂が入り、人の手で作られた物から仏像になるといわれる。

寺院などによっては、拝観できない場合もあります。

●発行/豊岡市
☎07961231111
市長室FAX2411004
●編集/政策調整部秘書広報課
FAX2412575

〒668-1866
兵庫県豊岡市中央町2番4号
URL <http://www.city.toyooka.lg.jp>

(総合支所)
・竹野 ☎4711111
・出石 ☎5231111
・城崎 ☎423210001
・日高 ☎5411000
・但東 ☎5411000